

令和7年（2025年）1月15日外部評価実施
柴原地域包括支援センター（北西部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2024年12月1日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：73,447人（前年12月1日時点 73,566人）

高齢者人口：17,349人（前年12月1日時点 17,336人）

高齢化率：23.62%（前年12月1日時点 23.57%）

【圏域の地域特性】

桜井谷・桜井谷東校区は古くからの歴史ある戸建て中心の住宅街と、転勤族が多く、マンションが数多く立ち並ぶ地域があります。桜井谷校区は坂が多く、買い物ができる場所が少なくなっています。地域活動の拠点が桜井谷校区の地域に多くあり、離れた地域に住む高齢者にとっては、途中は坂道もあり参加が難しくなっています。

刀根山校区は地域全体が丘陵地で坂が多いという特徴があります。また地域にはスーパー等の商業施設が殆ど無く、高齢になると買い物等が困難になる課題があります。自治会の数、加入者数は減少し、地域とのつながりが少なくなっている住民もいます。地域活動は盛んであり、各種イベントや防災訓練、見守り活動など活発に行われています。

大池校区は校区の南側に阪急豊中駅があり、周辺には多くの商業施設や地域活動の拠点である大池小学校があります。神社、教会、寺院の数も多く、歴史のある街並みが広がっています。一方で校区の地域活動の拠点から離れた場所に住む高齢者にとっては、バスに乗って向かう等の方法がありますが、やはり参加がしにくいという課題があります。近年はマンションが増え、若い世代の転入が増加し、高齢化率が低下しています。

蛭池校区は商業施設等が阪急蛭池駅周辺に集中しています。地域活動の拠点も蛭池公民館、市の施設、図書館等が入った駅前の建物です。その為、校区周辺の高齢者にとっては、駅に向かって緩やかな坂道になっていることもあり、しんどく感じています。しかし、住民同士の昔ながらの近所付き合いや、校区福祉委員会等の地域活動は活発に行われています。自治会の数は多いですが、近年は以前よりも会の数、加入者

が減ってきています。

箕輪校区の地域活動の拠点は校区の南側にある箕輪小学校です。校区福祉委員会、民生委員、公民分館、自治会等が中心となって様々な取り組みを展開されています。しかし、校区の北側から向かう時は途中に急な坂、また校区の西側から向かう際は道幅の広い国道大阪池田線を渡る必要がある等、環境的な課題があります。校区の活動拠点が小学校以外にないことが課題ですが、地域の通いの場や子ども食堂など、圏域内の共同利用施設を利用した取り組みが徐々に増えてきています。近年、自治会の加入率が約30%に減少するなど、地域の中のつながりの再構築が喫緊の課題となっています。課題解決に向けて、12月に関係機関合同で各戸訪問を行う「ローラー作戦」がスタートしました。

【医療・介護資源】

圏域内に市立豊中病院、大阪刀根山医療センターという、市内有数の総合病院、専門病院があります。阪急豊中駅周辺を中心として、各科のクリニック、診療所も多くあります。また、特にモノレール少路駅の周辺地域は、在宅療養支援診療所の数が近年増加傾向にあり、在宅医療体制が充実してきています。

訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、介護保険施設、サービス付き高齢者住宅など、介護資源が他の圏域と比べて数が多いのが特徴です。新規開設の訪問看護ステーションも増加しているが一方で、最近数年で居宅介護支援事業所が数箇所閉鎖しました。

取組方針や特徴

【センターの運営方針】

- ・豊中市地域包括支援センター運営基本方針に基づいて事業計画を立て、実行します。
- ・地域包括ケアシステムの構築を目指し、更に地域共生社会の地域づくりも見据えた事業展開を行います。

【特に力を入れて活動している点】

- ・地域へのアウトリーチの実施で、困りごとを抱える方の早期発見、早期対応を行います。
- ・地域住民、多機関合同の事業を多く実施し、地域内のネットワーク構築を促進します。
- ・圏域内三か所のオレンジカフェの周知を進め、参加者を増やし、質の向上を図ります。

・通いの場のフォローや、体力測定会の定期開催を通して、地域の介護予防を強化します。

【活動中での課題やその解決策】

・オレンジカフェや「みんなの保健室」など、地域で取り組む活動が多くなり、包括地域包括支援センター主体で継続していくことが難しくなりつつありました。今年度は、地域包括支援センターが後方支援に回れる様な仕組みづくりを意図して、開催に臨みました。その結果、多くの関係機関を巻き込むことで、まだ完全ではないが、徐々に関係者みんなで取り組む事業へと成長しつつあります。

総評

【特徴的な取組内容】

- 重層的支援体制の構築では、障害分野や児童分野の活動にも参画することによって、日常から多機関とのつながりや連携につなげられる下地作りへの取組みを継続されています。
- 地域の通いの場には、希望を踏まえてリハビリテーション専門職の指導を、通いの場グループに取り入れていく事によって、その後の継続した支援につなげられています。
- 圏域内の生活関連企業、こども食堂運営団体、保育施設と連携したシニア男性の居場所づくりに取組みが開始され、既存事業での抜け漏れを埋めるための工夫がなされています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- 地域の実情に応じた取組みの拡充のため、地域アセスメントの手法と目的の明確化が望まれます。
- 重層的支援体制の構築において、専門職や行政との取組みは推進されていますが、そこに限らず、地域と一体的になった重層的支援体制の拡充・構築に期待します。
- 地域でのさまざまな展開に期待がもてる一方で、関係機関、地域住民等と目的を共有しつつ、より一層連携を深めた、持続可能な体制及び方法での実施が望まれます。